



神戸市制100年に100歳で現役弁護士の中井一夫さん

中井一夫さん略歴

明治22年大阪市東区瓦町で生まれる
 大正6年東京帝国大学法科卒、同8年神戸地方裁判所
 判事。同9年神戸市で弁護士開業、同10年川崎・三
 菱大争議で賀川豊彦氏らの釈放に努力
 同12年兵庫県会議員当選。以来戦後昭和35年まで中央
 政界で活躍
 昭和20年8月11日神戸市長に任ぜられる
 同52年私邸を売却し5千万円を市に寄付
 同61年勲一等瑞宝章の叙勲を受ける
 平成元年神戸市名誉市民。現職弁護士。北野町に住む

□神戸っ子28周年

□神戸市制100周年記念座談会

中井一夫

〈弁護士〉

VS

陳舜臣

〈作家〉

神戸100年を生きる

今年には神戸港が百二十一年目、神戸市制百年、元神戸市長の中井一夫弁護士は、百歳を迎えられた。本誌もこの三月号で二十八周年を迎え、作家の陳舜臣氏と北野町の自宅を訪ねての対談となった。

★百歳の長寿は腸チブスのおかげと自然体から

陳 中井先生には昨年佐野病院の百周年記念の時に会いましたね。ですから佐野病院は神戸市より一年多い

んですね。中井先生の歴史は文字通り神戸の歴史です。岸和田中学の頃から神戸にいらしてたので神戸そのものと思いますよ。弁護士は現役でやられてますか？

中井 現役でやっています。(笑)

陳 やっぱりお仕事があるということがご健祥の秘訣ですね。中井先生は中学の時結核になられているのですね。中井 中学二年の時に血まで吐きまして間もなく亡くなる筈で、学校も一旦退学したんですが生き延びました。



今年読売文学賞を受賞された陳舜臣さん

陳 舜臣さん略歴

大正13年神戸市に生まれる

昭和36年「枯草の根」で江戸川乱歩賞を受賞し、推理作家として文壇にデビュー。

同44年「青玉獅子香炉」で直木賞を獲得、中国歴史小説の書き手として評価される。

「実録・アヘン戦争」で毎日出版文化賞受賞
「敦煌の旅」で大佛次郎賞受賞、紀行・エッセイ分野でも活躍。

平成元年「茶事遍路」で読売文学賞を受賞
講談社から「陳舜臣全集」全27巻を刊行
神戸市灘区篠原伯母山に住む

そして昭和十五年に腸チブスになって四十度の熱が一週間出まして、その熱で体の中の悪い病気が全部なくなつて（笑）あとは元氣になりました。

陳 焼きつくして微菌が全部なくなった。（笑）そういう人に限って長生きしてるんですよ。中井先生が市長時代に市民病院におられた五十嵐播水先生ね。あの方も九十歳まで生きられてますが三、四十歳頃に丹毒で死にかけたんですよ。またこの間、国学の江上波夫先生に会ったら八十幾つかですが、中学生の時あと一年といわれたことがあるんです。体に氣をつけるからでしょうか？

中井 いや、もう自然体ですな。長生きする人も早く死ぬ人も自然のさだめでしょう。

★判事で始った神戸の生活

陳 とところで神戸にはいつからお住いですか？

中井 実はね、神戸は母のふるさどですから子供の時から非常に懐しくてね。初めは判事として来たんですよ。その頃帝国大学の法科卒業生はそのまま試験無しで判事

になれたんです。もし私が当時試験を受けていたら、落第して判事にはなれなかったかも知れません。（爆笑）その頃砂田重政氏（砂田重民現代議士の父君）が私の政治家志望を知って「それなら神戸で弁護士を始めて、それから一しよに代議士に出ましよう」というので、三年契約で砂田さんの事務所の弁護士になりました。大正十二年、東京大震災の年に県会議員の選挙に出て当選しました。

陳 その翌年に私が生まれました。（笑）大正十三年ですから。その時すでに先生は県議員でいらした。

中井 私は陳先生とそんなに変わらんような氣がしているけど、先生は大分お若いんですね。（笑）いま、お幾つになられましたか？

陳 私はまだまだ赤ん坊ですわ。（笑）今六十五歳です。先生は帝国議会へも神戸から出られたんですか？

中井 昭和三年の普通選挙で砂田重政氏と一しよに当選しました。河上丈太郎氏、浜野徹太郎氏も一しよです。

陳 砂田重民代議士は子供の時、中井先生によく新開地

の映画に連れて行って頂いたそうですね。

——映画は好きなんですか？

中井 好きですよ。映画の本に日本に初めて入って来たカラー映画はイギリスの「ヘンリー五世」だと書いてあるけど、あれは間違っているんです。日本で初めてカラー映画を上映したのは私なんです。

——それは新事実ですね！

中井 昭和二十三年に公職追放になって市長を辞めさせられた。一しよに追放になった岡山の星島二郎（後の衆議院議長、サンフランシスコ条約日本代表）も映画が好きで、共に犬養木堂の弟子で革新派だったんですが、二人で暇だから映画会社でも作ろうとした。その時、ソ連大使館が私と星島君と親しくしておけば日本の本当の政治とつながりがあるので、ソ連の映画のフィルムを只で貸してくれたんです。「石の花」と「シベリア物語」の二本で東京の銀座にある映画館で上映しました。

陳 カラー映画の第一作上映なんですな。「石の花」は音楽がたくさんあった映画でなかなか入れなかったんですよ。満員でね。

★終戦時の市長としてマッカーサー元帥に会う

陳 終戦の時の市長さん（中井氏）の元気な声明を新聞で読みまして、一生懸命にやろうと市民に呼びかけているのが印象に残っています。市長になられたのはいつですか？当時は官選でしょう？

中井 五十六歳です。官選市長の最後です。昭和二十年の七月に神戸市議会で決定していたが、当時五大都市長は天皇の勅許が必要で、ようやく勅許が下りたのが八月十一日、終戦の四日前です。（笑）

陳 終戦を迎えられて、何を考えられましたか？

中井 日本が将来どうなるか、大変だと思いましたね。日本が再び偉い日本にならないようにアメリカは日本を抑えつけて臍抜けにしようと思ったがソ連への対抗上、日本を大切にしたいんです。戦争中には天祐神助はなく、負

けて初めて天祐神助が出て来た。ただこの頃、日本人はちょっと威張り過ぎて。（笑）

陳 本当に欲しい時の天祐神助ですからね。日本は運命が良かったんです。それだけでなく日本人皆が一生懸命にやって、環境も良かったからチャンスを掴みました。戦後の焼野原を私は覚えています。建物もなくて、たまにあっても中は空っぽで……。

中井 戦争はほんとうにしない方が良いでしょう。昭和天皇がマッカーサー元帥にお会いになったのは九月二十七日で、その一週間後に賀川豊彦先生の紹介で私はマッカーサー元帥に会ったんです。会って私に言った言葉は、「戦争は勘定に合わないものだ。日本にかつての大山巖、乃木希典、東郷平八郎のような人がいたなら、こんな戦争はしなかっただろう。ほんとうの愛国者がいなかったのだ。戦争は勝っても負けても損なのだと知っていることを知らせるために私は来たのだ。パールハーバーの仇うちに来たのではないのだ」ということだった。

それで私は「日本の国民はほんとうに戦いを望んでいいのではない。一部の勢力によって戦争にもって行かれたのだ。日本を治めるのは拳銃ではない。まず食糧を送って欲しい」と話しました。

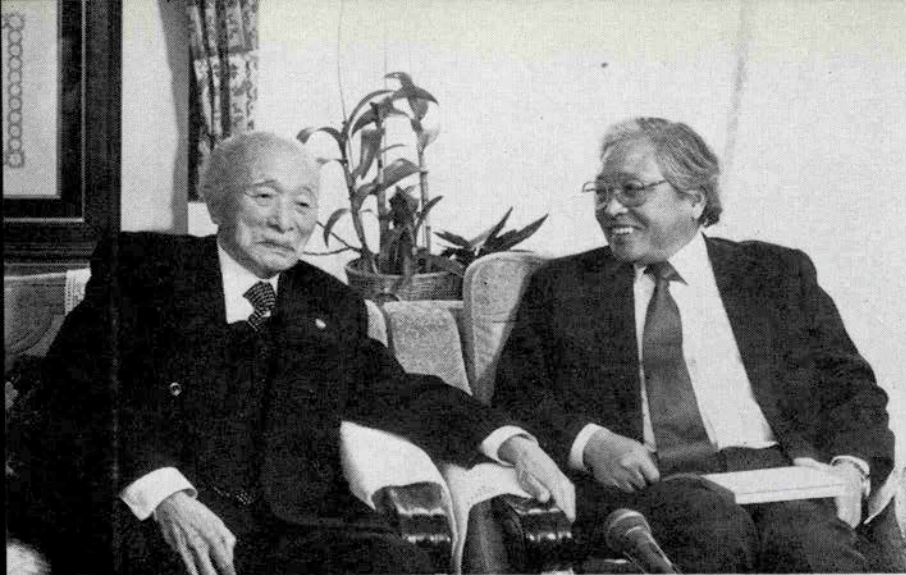
★神戸の復興を助けた人々

陳 賀川先生はお元気でした。神戸は良い人を持っていましたね。党派は違いますが河上丈太郎さんも。

中井 賀川先生はキリスト者としては珍しい方です。身を挺してやって行く、ほんとうの聖者でした。

陳 実践の人でした。神戸のイズムですね。神戸にはそれがずっと流れています。生協運動も生活と理想を結びつけたものです。賀川先生は戦争中、場合によっては妥協もできる懐の深いところのある方でした。

中井 陳先生のおっしゃる通りです。戦争中賀川さんはアメリカの悪口をいってますよ。戦わざるを得なくなっていたのはアメリカのせいだといってました。戦後は賀川内



北野町の中井一夫氏邸にて意気盛んな中井一夫さんと陳舜臣さん

閣の構想もあったんですよ。賀川内閣ができたらしずめ私は法務大臣でしょうか。(笑)

その賀川先生に神戸市の顧問を頼みまして戦後の復興をどうするか、市民の心がほんとうに平和のために立ち上げられるように方々で演説して精神面の復興に力をかしていたのだ。

陳 その時、精神面の復興は賀川先生、建物などの街の復興には原口忠次郎博士を引っ張って来られたのは中井先生でしょうか？

中井 原口氏は岡山にいたのを電報を打って来てもらった。原口氏は内務省の大技師で満洲のハルビン建設をし

た人で、神戸港を作った人でもあるんです。

陳 神戸をよく知っておられたんですね。神戸は天の利、地の利があつて人の和があつた！

中井 それから民間では勝田銀次郎さん、この人を復興委員会委員長にして、勝田さんと一緒に神戸の町を、鉛筆でダーツと線を引いて道路の広い町を作ろうと計画したが、議員が市民に頼まれて小さな計画にしてみました。陳 戦後の初めての市長として、また代議士として戦後の神戸市のために働いていただいたんですね。

★百歳にして一から始める

中井 この頃思いますことはリクルートの疑惑の問題で皆さん、ずいぶん貰つてますなあ。(爆笑)

この問題は根が深い。金を使わなくても当選できる制度に変えないといけませんね。これが基本でしょう。英国は解決したんですからね。英国も買収ばかりでやっていたが、これはいけないと小選挙区制に変えた。日本も根本的に改正する必要がある。そんな時代が来てます。

陳 神戸も百年を迎えますがいろんな人の世話になって市民も一生懸命頑張った。心配するのは士気がなくなる。こと。平和潰けになって気力がなくなると困りますね。緊張感をいつも大事にしてゆかないと。もうハードはできておりますからね。気持、ソフトの問題ですね。

神戸っ子はこの三月で創刊二十八周年ということですが、創刊の頃中井先生はすでに七十二歳、もう神戸のシンボルですね。

——今年の「新年名刺交換会」の席上宮崎市長から名譽市民に推挙されたのですが、その時のごあいさつが素晴らしい。

「生きることを考えなければいけない。神戸のために、日本のために、世界のために、ひいては世界の平和のために力を尽したい」とおっしゃって、これは中井先生しかいえないし、ふさわしくない言葉です。説得力、言葉の力が違います。

陳 同じことを言う人があっても実績が伴わないと……。ほんとうにお体に気をつけていただかないと、神戸のかけがえのないお方ですから。

中井 実は名誉市民なんて望まないんですが、あんな風にしていただきますからなかなか死ねない。(笑)一生懸命、今から、一からやり直します。

陳 立派なお言葉ですね。

★神戸市も日本の中心になれるように

——神戸市民は中井先生という目標があつて百歳めざして……。神戸市へのご提案はございますか？

中井 何でも東京中心ですね。神戸は田舎扱いされている。もっと分散して神戸も日本の中心になれるようにすべきで、制度の上から変えてゆかないといけない。

陳 実際は便利になってるんですよ。ファックスもあつて、もう東京へ行かなくても用事が済むんですから。今度の芥川賞、直木賞の四人、東京の人が一人もない。本当に頼もしい。(笑)北海道とか山梨とか、韓国の人もいます。

文芸春秋社で毎年手帳を作ってるんですが使い易いと皆使っているけど、新聞社も出版社も東京しか書いてない。文芸春秋社の人自身が関西に出張して電話しようとしたら出ていない。私が言いましてやつと今年から載ってますよ。やはり努力して、しつこいぐらい言わないといけないのです。

——神戸はこういうことをやって貰いたいということはどうですか。

中井 造船ですね。神戸にふさわしいものです。ところが川崎、三菱造船は関古鳥が鳴いてますよ。この間、韓国に行つて驚いた。韓国の釜山、賑やかなことですよ。



「新年名利交換会」で宮崎市長と中井一夫弁護士

陳 人件費ですね。人手をたくさん使うのもですからね。私も釜山に行きましたが、私が小・中学校の頃の新聞地のあたりね、川崎重工の工員さん達が朝、出勤して行く時のような、あんな感じだったですね。

中井 新聞地は、今のままだったらどんどん淋しくなっていくね。

陳 市役所もかつてあつた場所から東に移つてしまいましたがね。新聞地は人材が出てるんですよ。ダイエーの中内功さんもあの辺りですね。それから推理作家で亡くなった横溝正史さん。NECの関本社長さんは聚楽館の近く。お母さんが教育熱心で孟母三遷にならつて環境が悪いというので家は別ですけれどね。新聞地は活気というかバイタリティー、エネルギーがあつた。あのままの熱気でなくとも、何らかの文化的な熱気を復活させたい。

——最近各分野で女性が活躍していますが、女性に対して何かご意見は？

中井 女性は立ち上がつて欲しい。今の政治を清く正しくするのは婦人の力だと思います。兵庫区の連合婦人会、会費を納めている人だけで十六万人います。名義上は二十万人。日本一です。昔からほんとうに珍らしい有力団体です。こういうのが中心になつて政治改革をしなければ。

陳 神戸の女性はそれに応えますよ。

——土井たか子さんをはじめとして。

中井 土井さんの団体の中心は神戸市にあるんです。党派は何でも全くなまわないから、土井さんを中心に清く正しく政治を改革しなくては。これは婦人でなくてはできない。清く正しく、婦人に大いに期待しましょう。

(北野町・中井一夫邸にて)



FASHION TALK MARCH

すてきな毛皮を長く愛用するために。

毛皮をじょうずに着こなすためには、注意が必要です。水や雨をさける、火に近づかない、香水などをふりかけない、トラブルがおこったら早く専門家に相談するなどは、オンシーズンの常識です。シーズンが過ぎたら、汚れなどが定着しないうちに近隣のニシジマへお持ちください。汚れ、シミ、キズをチェックし、毛皮クリーニングいたします。また、湿度50%、温度15℃の毛皮保管庫もご利用いただけます。



本社/神戸市灘区記田町1丁目2-16
078-851-2440

■大阪支社/06-853-1332 ■つかしん店/06-420-3754 ■ロープ・ニシジマ/078-332-2440
■山手店/078-221-2440 ■宝塚店/0797-72-0810 ■リフォーム・フルフル/078-221-9110

フルーツ・クッション

——新発売——



フルーツ果肉入りケーキ

アップル・レーズン・ストロベリー

12ヶ入……………600円

20ヶ入……………1,000円

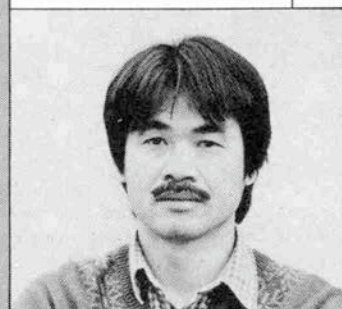
——北 欧 の 銘 菓——

2-ハム・コンコクト

美術部門

選考座談会

動く彫刻に秘められた可能性 松本 薫へ



★立体分野に注目を

増田 安井賞候補展で名前の挙がった藤原護や保ヶ淵静彦は順調ですね。堀滋の可能性も注目に価するものがあります。須磨離宮公園の作品を見ても、まだまだこれからののびると思われまます。

伊藤 鹿間厚次郎も着実ですよ。

赤根 彼は実にテーマに忠実ですよ。堀も若いし大いに期待できます。ちなみに今回の須磨離宮公園彫刻展から会場構成を担当することになった建築家の山崎康孝も評価されます。アート・ナウやいろんな展覧会に出品している河崎晃一、女流では発表活動を絶やさず、その都度成果が注目されている三村逸子の名前を前回に引き続いて挙げておきたいですね。

増田 コンピュータグラフィックアートの辰馬喜代子、この分野は県展でも一点しかなかったの

● 選 考 委 員 ●



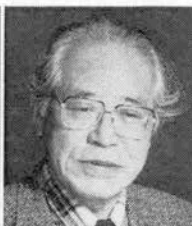
高橋 亨
〈大阪芸術大学 教授〉



伊藤 誠
〈姫路市立美術館 副館長〉



増田 洋
〈兵庫県立美術館 次長〉



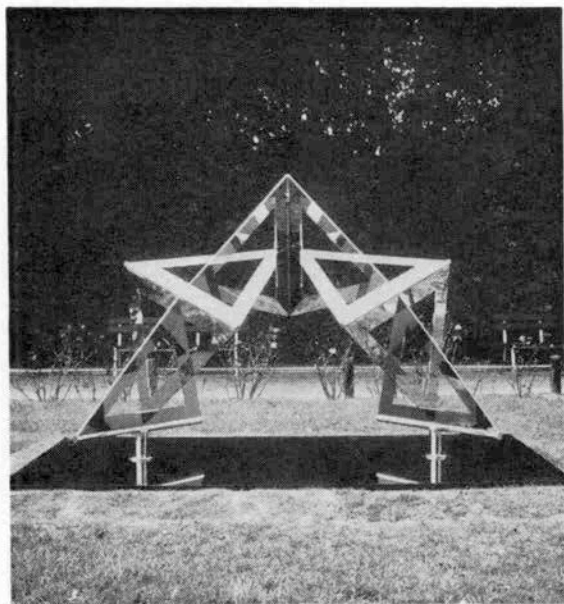
赤根 和生
〈美術評論家〉

味を持ったんですが積極的に創作活動をしているようです。

伊藤 ステンドグラスの立花江津子も姫路高校の音楽ホールなど神戸方面での活躍が目立ちますね。高橋 金月焰子もフレッシュな活躍が見られます。昨年も名前が挙がっていますが松井憲作、塚脇淳、版画の神野立生も地味ながらよくやっていますね。挿絵も随分長く頑張っているようです。

赤根 彼の場合、曲線が生きてきましたね。童話作家としての活躍が目立ってきてますが漫画家の岡田淳のユニークなセンスも見逃せません。シテイ・ギャラリーの向井修一も挙げておきたいですね。

高橋 新人や目ざましい活躍を遂げた人だけでなく、じっくりと仕事をして着実に歩んでいる人にも目をむけるべきだと思います。その意味では田中薫、あと残念な



神戸須磨離宮公園賞を受賞した作品
『TWIST-360度』

が解散してしまったけど環境造形Qの増田正和もグループでこつこつという仕事をしていました。赤根 Qといえ、山口さところあたりの世代が登場してきてもよさそうですね。

伊藤 グループ展が中心でしたが門脇正弘、それから今年は立体に注目するべきだと思っんです。先ほども名前の出た田中薫、松本薫。本彫では松田一樹、春陽会の浜淵泰行、既に第四回目のブルーメール賞を受けていますが藤原向意も面白いですね。

増田 仲々よかったですね。本筋から少しずれますがアトリエ西宮やトアロード画廊などはい動きをしていると思います。

★自分のスタイルを極めた松本薫 今後の展開が楽しみです

———では、そろそろ絞こんでいきましようか。

伊藤 私はやはり立体の分野を強く推したいので松本薫、田中薫、平面ならば藤原護ですね。

増田 私は河崎晃一と松本薫。

高橋 立体でいえば、やはり田中薫、松本薫、平面では松井憲作でしょうね。

赤根 梶滋、河崎晃一、あと三村逸子ですね。

増田 田中は先に自分の造形、フォルムを見出してバリエーションを試みていますね。

高橋 どちらかといえば田中が先に受賞するべきのような気がする

んですが……。

伊藤 そうですね。でもある意味では、このブルーメール賞の選考基準を乗り越えてしまったという気がします。私は松本に、と思います。

増田 松本は須磨離宮公園の作品で自分のスタイルの究極にきたという感じ、一番いい状態から次にどんなバリエーションで、どう展開させていくか非常に楽しみな気がします。ハナの差で常に田中が松本を一步リードしている形ですから僕は、どちらでもいいと思いますよ。

赤根 どちらかということになれば、より新進の松本じゃないかな。伊藤 賛成ですね。

———では第18回ブルーメール賞は松本薫に決定いたします。

■受賞者メモリアル

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 彫刻/山口 牧生 | 10. 版画/松谷 武判 |
| 2. 造形/丸本 耕 | 11. 平面/木下佳通代 |
| 3. 洋画/小西 保文 | 12. 造形/宮崎 豊治 |
| 4. 版画/藤原 向意 | 13. 平面/藤原 志保 |
| 5. 平面/斎藤 智 | 14. 建築/武田 則明 |
| 6. 洋画/鄭 相和 | 15. 平面/石川 晴久 |
| 7. 洋画/山本 文彦 | 16. 平面/松原 政祐 |
| 8. 造形/堀尾 貞治 | 17. 造形/植松 奎二 |
| 9. 造形/榎 忠 | |

舞台芸術部門

選考座談会

能の幽玄と花、風姿美しい
久田徹二へ

佐野 昨年をふり返って受賞対象の舞台成果や話題をあげてゆきましようか。

岡田 「白鳥の湖」全幕は貞松・浜田バレエ団の水準高く均整がありました。藤田佳代作品集の「松が錆びた」は公害をとりあげユニークでした。それに全国規模で洋舞コンクールを始めましたねコンクールは目立って技術が向上しますからすばらしい企画です。

名生 続けることが何より大切です。「林恵介に贈る会」をやり一周忌をしのびました。照明ばかりでなく演出演技にも意見をのべる情熱家で貴重なこれからの人でした。

佐野 23のバレエ団の競演でした。亡くなってみると、ずばっと柱が抜けた感じ。果洋舞家協会の心暖かい催しでした。東京草月ホールで加藤きよ子が文化庁芸術祭参加で『鴈』をやり注目されました。

岡田 森敦の「鳥海山」より取材したのですが原作者も作曲の新井満もきて賑やかで、すっきりした作品でした。

佐野 すっきりといえば阿部米造

● 選 考 委 員 ●



岡田 美代
＜演 出 家＞



名生 昭雄
＜兵庫県生活文化部＞



佐野 連箕
＜神戸新聞取締役兼
元文事局長＞



の Pantマイム をあげたい。伴・阿部発表会でのバリ土産でしたが伴須美のふくらした貫禄は立派。Pantマイムには磨きがかかり「大地」など人間賛歌があつてじんときました。日本人独自のものをめざしていますね。

名生 地唄の松本尚詩が大阪文化祭大賞を受賞しましたが、長年の努力の結果でしょう。

佐野 「江口」がその対象作でしたが岡田美代の演出力も評価に入りたい。今後尚詩は演出を工夫してゆけば更に大きくなる。形がきまってきましたから。花柳五三輔が神戸市文化賞奨励賞を受賞しましたが、つやが舞踊にでてきた。フェスピック大会の開会式の演出も担当するそうだからこの方面でも活躍してほしい人です。

名生 花柳芳圭次も地味だが古典をまじめに追求している。この姿勢は評価したい。それに国民文化

祭で「日本舞踊の祭典」がありましたね。

佐野 花柳、若柳両家元も出演し全国的な顔ぶれで充実感あり、久しぶりの舞踊の競演に堪能した人も多かったはずです。

名生 花柳吉金吾もがんばっている。とにかくあちこちの舞台によく出ていますね。今年も第3回リサイタルをやるのでしょうか。

佐野 「江戸風流」が特によく吉金吾のもてるものすべてを出しての力演でした。舞台を多く踏むことが大きくしているようですね。

神戸市博物館の「邦楽サロン」も四回を重ね定着した感じ。年2回やってほしい希望も多く解説もあり博物館ならではの企画が好評のようです。

岡田 話題はなんといっても新オリエンタル劇場の「蜷川忠臣蔵」ですね。三カ月のロングランは常識を破りました。

名生 三回ほど観ましたがセリフが入ってきた十月中頃は少し上すべりでしたね。新劇の分野ではどうですか。

佐野 寸暇をさいて秋の芸術祭などみて回りましたが新劇の命ともいえるセリフ、もっと勉強してほしい。このひとことにつきますね。

岡田 中村扇雀の近松座が昨年「出世景清」でがんばりました。この三月中座で鴈治郎追善があるそうで、上方芝居が少ないだけに成功してほしいですね。

佐野 最後にもう一つ。大阪文化祭参加で久田徹二が「野宮」を舞

った。華麗、品位に厚味が出てきました。

名生 大体出つくしたようで、少し水準を高くしぼった感じですが、遅きに失したようですが能楽界の伝統と格式という視点から理解願うとして「野宮」あたりはどうでしょうか。ブルーメール賞の設立の原点に立って。

岡田 受賞者はいずれも受賞が転機となって活躍し伸びています。昨年度の東伸一矩もその一人です。「野宮」に賛成です。今後が楽しみです。

佐野 「俊寛」に続いて明石での「融」そして「野宮」で勉強しています。では能の幽幻と花・風姿美しく重厚さもできた観世流久田徹二にさしあげましょう。これでまた一つ花が咲きましたね。(文中敬称略)

■受賞者メモリアル

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 邦舞家/花柳恵一子 | ド・フーゲツ |
| 2. 邦舞家/若柳吉由二 | 11. モダンダンサー/加藤きよ子 |
| 3. 能楽師/吉井 順一 | 12. 舞踊家/藤田 佳代 |
| 4. 邦舞家/花柳芳五三郎 | 13. 邦舞家/花柳五三輔 |
| 5. 邦舞家/花柳 吉史 | 14. 映画監督/白羽弥仁 |
| 6. 邦舞家/藤間緑寿郎 | 15. 邦舞家/松本 尚蒔 |
| 7. 邦舞家/尾上 菊見 | 16. 笑クリエイティブ社/楠本 善章 |
| 8. 能楽師/藤井 徳三 | 17. フラメンキスト/東伸 一矩 |
| 9. 仮名手庵歌舞伎/海野 光子 | |
| 10. 演劇/コメディ・ | |



華麗に＜野宮＞を舞う久田徹二師

文学部門

選考座談会

フレッシユな感性を持った
森 榮枝へ



★力量ある候補者が集まった文学

部門

杜山 今年には六名の作家が候補に
あがってるんですが、まず、「モル
ダウ川のさざ波」の森榮枝。とて
も感の鋭い作家だという印象を受
けました。視野も広くてね。ただ、
構成の面で少し損をしているかな。
河内 確かにおもしろいと思うん
ですよ。しかし、これ単独で小
説とは言い難いんじゃないか、も
っとおもしろい切って変わったもの
にしてもよかったんじゃないかと感
じるんですが。

田摩 しかし、とてもフレッシユ
な感じがしましたね。発想の柔軟
さというか、読んだ後にほのぼの
したものが残っていて、やはりこ
れは作品全体の魅力じゃないでし
ょうか。

杜山 「球磨川」の柳井悦子、共
感もてる作品で、集中力もあっ

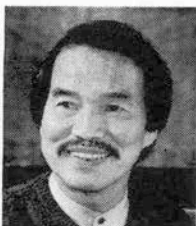
● 選 考 委 員 ●



杜山 悠
＜作家＞



河内 厚郎
＜関西文学編集長＞



田摩 新
＜作家＞

て感心しました。

田摩 小学校の少女の初潮前の生
活と熊本地方のカラーが確かな目
で進んでいました。

河内 そうですね。普通の基準で
見て小説としてよくできていると
思いますね。完成度は高いと思い
ますが、やや、ありふれてる…。

杜山 次に、「風少年の歌」の由
宮顯。『風の又三郎』を思い出す
ような作品で、大変おもしろかつ
たんですが、ストーリー性に希薄
さがあって、非常に残念でした。
河内 力量は感じるんですが、い
ろんな魅力的な素材が煮つまって
いないと思うんです。

田摩 しかし、文体が生生きし
てて、できればの良さを感じまし
たね。ある意味では捨て難い…と。
杜山 「太子橋」の伊々田桃。筆
勢を感じましたね。主人公の感情
も木目細かく鋭く捉えられていま
したよ。ただ、導入部分でもう少
し刈り込んどけばいいのになあ、
という感じはありました。

河内 青春群像の縮んだものがよ



自宅にて 森榮枝さん

く出てると思うんですが、ちょっと魅力に欠けると思うんですね。

その辺が水辺早苗の「姉と男と妹と」なんかには、実際にはありそうもない話かも知れないですが、小説のフィクションとしての魅力というものをストーリーとして持つてゐるんじゃないかと思えますね。

田藤 そうですね。「太子橋」について言えば同人誌でよく見かける範囲から出ていないんじゃないかと思えますね。全体的に魅力の薄さみたいなものがあつたりして、もう少し何かを書き込んで欲しいという気がしました。

河内 「視線の街」の綾羽一紀はどうでしょう。関西では珍しい幻想作家じゃないかと思うんです。

SF作家はたくさんいると思うんですが、幻想作家みたいなショートショートを書く人は少ないんですよ。東京に居る川本三郎とか或いは日野啓三、ああいう風な物の見方を関西の風土の中で捉えようとしている。なかなかおもしろいと思うんです。素材としては未知数だけれども…。

田藤 ええ、確かに感性の豊かさみたいなものは気に入ったんですが、やはり馴染みにくいものがありますね。

★「神戸っ子」の新しい読者に訴える力をもった森榮枝の作品
河内 しかし、六篇ともなかなかのものだという気がしますね。

田藤 それだけに受賞者を絞るの

がむずかしい。

杜山 作品がどれも小さいだけにね…。「神戸っ子」らしい作品を、と言っても簡単には決められませんが、例えば掲載を前提にすればどうでしょう…。

田藤 「モルダウ川」の森が面白いと思うんですが、読後感がさわやかで明るい街の佇まい、匂いが感じられて。

河内 他の文学賞では選ばれにくいだろうと考えると、いいかも知れませんね。

杜山 「神戸っ子」の新しい読者に訴えることもできるし。

河内 「神戸っ子」の方も育てる機会が持てますしね。

杜山 賛成です。しっかりした角度をもった作品だと思いますね。書ける人、書き続けてくれる人として、今年は森榮枝に決定ですね。

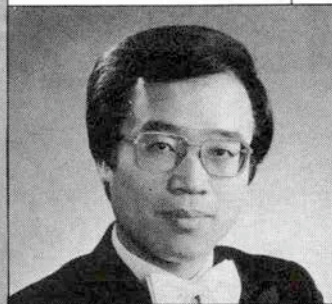
■受賞者メモリアル

△文中敬称略▽

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 詩 / 中村 隆 | 10. 小説 / 吉保 知佐 |
| 2. 小説 / 鄭 承博 | 11. 詩 / 季村 敏夫 |
| 3. 短歌 / 小泉八重子 | 12. 小説 / 福岡 勝利 |
| 4. 小説 / 福元 早夫 | 13. 詩 / 時里 二郎 |
| 5. 詩 / 三宅 武 | 14. 評論 / 松尾美恵子 |
| 6. 小説 / 秋吉 好 | 15. 詩 / 武田 信明 |
| 7. 詩 / 江頭 越子 | 16. 小説 / 山西 史子 |
| 8. 小説 / 桜井 利枝 | 17. 詩 / たかとう匡子 |
| 9. 詩 / 梅村 光明 | |

音楽部門 選考座談会

最高の演奏を、神戸で披露 広岡隆正へ



★全体に低調な音楽界の中で
小石 神戸の音楽界は、年々低調
になってきています。

出谷 特に中堅が。一部のベテラ
ンとこれからの若手はいるが、30
〜40歳台が手薄ですね。これは神
戸だけの問題ではないですが。

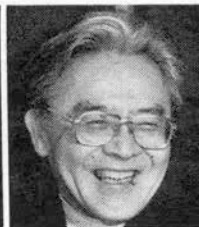
小石 そういふ状況の中で、頑張
っている人の名をあげると、畑儀
文（声楽）、浅井康子（ピアノ）、
右近恭子（ピアノ）、岡田司（指
揮）、広岡隆正（声楽）、金昌国
（フルート）、八木宣好（声楽）
……。

柴田 西宮でやった神戸芸術協会
によるオペラ「ヘンゼルとグレー
テル」も良かった。お菓子の匂い
の演出がおもしろかったですよ。
小石 八木宣好はテレマン室内合
唱団のソロとして技量的に安定し
ているし、昨年は「第九」のソロ
も。

● 選 考 委 員 ●



出谷 啓
＜音楽評論家＞



柴田 仁
＜音楽評論家＞



小石 忠男
＜音楽評論家＞

出谷 それと歌だけではなく、テ
レマン室内合唱団の団長としての
手腕を買う。

小石 それと歌とコーラスのトレ

ーナー。この3部門に貢献してい
る。ただリサイタルを開いたこと
がないことがちよつと……。

出谷 地方のコーラスのトレーニ
ングで忙しいこともあるし。

小石 そうかもしれないですが、リ
サイタルを開いていないというこ
とは、演奏家の実績として非常に
弱いですね。

★若手は来年以後に期待

出谷 名古屋フィルの岡田司は神
戸出身だし、去年も神戸で「魔弾
の射手」を振っているが、活動の
中心が東京と名古屋ですからね。

柴田 チェロの田中次郎はどうで
すか。

小石 彼はちよつと若すぎません
か。まだこれから受賞のチャンス
は、いくらでもあると思います。

出谷 新人では右近恭子も非常に
安定している。去年の10月のコン
サートでは、武満徹などの難曲を

弾きこなしていた。しかし田中次郎と同じく、来年以後に期待しましょう。金昌国は今さらという感じ。

小石 もう全国区ですから。

★二人の音楽家に絞られた

出谷 私は実力的に言って畑儀文を推したい。

小石 彼はちよつと賞をもらいすぎていませんか。

出谷 まあそれだけ良いわけだから、賞を取るわけで。去年の秋のリサイタルも素晴らしかったですよ。

小石 私も十分に彼の実力は認めています。リサイタルだけでなく、年末の「ヨハネ受難曲」も素晴らしい出来だった。

出谷 実力的には傑出した存在だと思う。

小石 浅井康子は縁の下の力持ち的存在。リサイタルで実績を上げたわけではないが、毎回レベルの高い伴奏をする。こういう人に光を当ててあげても良いと思いますね。

出谷 それは大変いいことです。が、私は最近聴いていない。

小石 そうすると畑儀文と広岡隆正に絞っても良いようですね。

柴田 広岡隆正の昨年10月のコンサートは、彼の今までのキャリアの中で最高の出来の一つ。

小石 それにずっと神戸にいる人で、ブルーメール賞にはふさわしい。



エスプリ溢れるフランス歌曲を熱唱

地元の音楽家がみんな大阪志向の中で、永年の成果を神戸で披露した広岡さんの姿勢は評価できる。

柴田 彼ぐらいですね。神戸でちゃんとリサイタルを開いたのは。

小石 昨年は今まで培ってきた、一番素晴らしいものを神戸で発表した。

出谷 今年は広岡さんで決めましょうか。

小石 畑儀文と右近恭子は来年以後にしてももらいましょう。

出谷 今年は神戸の音楽家の一層の活躍を期待したい。

■受賞者メモリアル

- | | | |
|---------------|------------------|---|
| 1. 田原 富子/ピアノ | 10. 松本 幸三/声 | 楽 |
| 2. 矢野恵一郎/合唱指導 | 11. 伊藤 ルミ/ピアノ | ノ |
| 3. 上月 倫子/バレエ | 12. 井上 和世/声 | 楽 |
| 4. 今岡 頌子/バレエ | 13. 末広 光夫/プロデュース | |
| 5. 小石 忠男/音楽評論 | 14. 安芸 栄子/声 | 楽 |
| 6. 中村 茂隆/作曲 | 15. 延原 武春/指揮 | 揮 |
| 7. 関 晴子/ピアノ | 16. 中西 覚/指揮 | 揮 |
| 8. 坂本 環/声 | 17. 青井 彰/ピアノ | ノ |
| 9. 山内 鈴子/ピアノ | | |

ファッション部門 選考座談会

神戸の生活文化をプロデュースする
村上和子へ



★個人名がでてこない大手アパレル企業

小泉 ファッション関係で活躍の目立った人を挙げて行きますよ。

藤本 天津でファッションショーを行なった大西節子は話題性がありますね。彼女自身、力をつけてきてますし、「大丸・ジバンシイサロン」のデザイナーとしてのキャリアも長いです。

小泉 「ブティック魔女」の丹野最世子はK・F・Mで随分、伸びましたね。今年のショーが楽しみです。

福富 先生が学院長をなさっている「神戸ドレスメーカー学院」が創立50周年をむかえて、「神戸ファッション専門学校」と変名。これも画期的でしたね。

福富 私は「ドレスメーカー」の名前にこだわったのです。

● 選 考 委 員 ●



小泉美喜子
＜本誌副編集長＞



荒津 正美
＜神戸ドレスメーカー
代表取締役＞



藤本ハルミ
＜デザイナー＞



福富 芳美
＜神戸ファッション
専門学校校長＞

が、古いものは捨てなければいけない時がありますから。

小泉 今年にはK・F・AとK・F・Tが「街開き」をする年で、ファッション都市・KOBÉのひとつの仕上げになる年です。神戸の男性がファッション都市づくりによく頑張りましたね。

藤本 しかし、K・F・Aが昨年、一昨年と恒例のファッションショーをやめて、パーティーを行なったのは残念ですね。

福富 企業内の内輪のパーティーもいいけれど、市民との接点をもったショーを続けてほしかったですね。

小泉 大手アパレルの数がとても多くあるのですが、企業の中のデザイナー名でのブランドづくりが少ないですね。

荒津 大手アパレルだとブランドひとつにしても、どこまで個人の

力が判断がつかないのです。あくまで組織で成立していますので。

★ファッションとしての生活文化

小泉 少し、分野を広げてファッションナブルな活躍をした人たちにもスポットをあててみましょう。

藤本 神戸は生活文化をファッションと考えているので、幅広い視野をもってファッションをとらえなければいけませんね。

小泉 そういった意味で北野がブライダルビレッジ宣言をしたのも面白い動きでした。「カサブランカクラブ」「ジュノーの館」の打

間奈津子が「桂由美ブライダルミュージアム」の館長になった。

藤本 ジャーナリストの村上和子が高砂のブライダルシティ宣言を

手がけて「世界のブライダルファッションショー」の総合プロデュースをしました。単なるショーを超えたホットな力を感じました。

小泉 居留地界隈の街づくりを行なった大丸の長澤昭店長は古き良き神戸、とくにモダンだった昔の元町の雰囲気よみがえらせてくれました。

荒津 居留地界隈が活性化し、街がファッションナブルに生きづましましたね。

小泉 では、そろそろ絞りこんでいきましょう。

藤本 そうですね。大西節子、長澤昭、村上和子、この3人の活躍が目立ったと思います。

福富 私も同意見です。ただ大西



・87の「世界のブライダルファッションショー」の模様

節子には今年のショーで頑張ってもらって…。

荒津 では最終選考に残ったのは村上和子と長澤昭ですね。

小泉 長澤昭は街づくりに声援を贈り、若い村上和子が、自分のベストセラー書「洋菓子天国KOB E」をもとに大丸で「洋菓子天国KOB E」展を開きました。これがハイカラ神戸にふさわしいすばらしい企画で五万人を動員しました。ファッションナブルな生活文化を創りだした意義は大きいです。彼女に決めるはどうでしょう。

荒津 賛成ですね。

福富・藤本 これからの活躍も期待できますしね。

小泉 では、村上和子に決定いたします。

〈敬称略〉

受賞者メモリアル

1. 服飾デザイナー／藤本ハルミ
2. 神戸市心身障害福祉センター／米田博司
3. ニットデザイナー／市野木江充子
4. コウベジュニアテラーズクラブ/KLTC
5. アートフラワー／太田タマコ
6. コウベファッションソサエティ/K.F.S
7. パール／「真珠の街・神戸」を考えるプロジェクトチーム
8. 家具／神戸市家具青年部会
9. コウベファッションモダリスト/K.F.M
10. 書道家／望月美佐
11. コウベファッションクリエイターズ/K.F.C



★これからの商業不動産は

まかし、まかされるといふ事

青木

幸夫

〔株式会社エルアイシー
代表取締役〕

●名医、名弁護士を選べ

病気で医者にかかる時、私達は身体をゆだねるわけですから、信頼できる人、まかせることのできる人を選びます。あるいは財産上の問題、刑事、民事に関わることで弁護士に頼む場合、やはりまかせることの出来る人を選びます。

まかし、まかされるといふことは大変なことです。商業不動産におきましても同様に、そのことが非常に重要になってきます。

名医と言われる方がいらっしやいます。長年、幾多の経験を積んでこられた上での名医。同じく実際に数々の依頼を引き受け評価されてきた名弁護士。肩書きも出身校も問題ではありません。私も

はそういった意味で、商業不動産における名医、名弁護士としてお役に立ちたいと思っています。

●まかすか、まかされる信頼

私どもは、まかせていただくために、常に全力を傾けていますが、オーナーさんの方にも、まかす力を持つていただきたいと思っています。先般、再開発ビルの仕事をやらせていただきましたが、オーナーさんが私どもに、一切まかせて下さいましたので、大変うまくいきました。そしてこの、まかしまかされるというものの、一番の根本にあるものは信頼です。安心してまかしまかされる信頼です。信頼されてまかしていただいた者として、私どもはまかして下さった

人、会社には、誠心誠意尽くさせていただきます。

●プレゼンテーションの段階で

このように、まかし、まかされることで、商業不動産は有効に活かされるわけですが、その中でも実際の売買・賃貸に至るまでの前段階、すなわちプレゼンテーションの時点でまかしていただくことが大切です。確かにプレゼンテーションの費用はかかりますが、商業不動産は大変高価なものですので、なおさらプレゼンテーションには時間と費用をかける必要があります。あとから取り返しのないことになりますから。そして私どもにまかしていただきましたら、それに対する処方箋を作り出すので、その後、病気にはからなくなりす。つまり数字で合ってくるわけです。

まかされるということは、私どもが不動産を有効活用する上で、代理人として専任されたことにも等しいわけですから、真摯に取り組んでまいります。単に数字を付さ合わせるのではなく、常にオーナーさんの立場で考え、オーナーさんが納得され、満足されるのが私どもの使命であると思っています。

株式会社エルアイシー

神戸市中央区港島中町6丁目9番地の1
ポートアイランド国際交流会館7F
(078) 302-4009



絵と文

一本のマジック・インキから

□トランペット片手にブラジル一人歩き（18）

右近 雅夫（在ブラジル・サンパウロ）

ブラジルへの移住者も最近では極く一部の技術者や商社関係を除いては、すっかり途絶えてしまった様だ。一昔前の移民は皆それぞれ苦労した経験を持って居るが、我々一家もサンパウロへ移住して来て、生活が軌道に乗る迄の間には色々失敗もし、随分しんどい目に合ったものである。

日本を発つ時、父が戦災で焼けた鴨子ヶ原の家を売って得た金は親子六人の渡航費と当初の生活費に費やしてしまい、間もなく毎月の家賃の支払いにも困る状態に成って居た。僕がトリニダード・トバゴへロケの仕事で行って帰って来た当時の事で、新しい就職口も見つからず、ロケで儲けた金も滞納して居た家賃を払うとスッカスカに成ってしまった。苦しい家計を切りまわす母の苦労はさぞかし大変だったろうが、料理の腕に自信の有った母は妹二人に手伝わせ、自宅で二世の娘さん相手に料理のレッスンを始めようと言う事に成った。何でも思いついたら直ぐ実行に移す性格の母で、アドック・ローボ街に広い台所のついた家を借り、サンパウロの邦字新聞に「右近いく子料理教室」の広告をのせ生徒募集をした。しかし最

初の内は生徒がなかなか集らず、母は知り合いで世話好きな鴨川夫人の紹介で、地方の婦人会をまわって料理講習会をする仕事を引き受けた。通訳兼助手に妹を連れ、汽車や長距離バスに揺られ、奥地の日系人集団地を何日もかかって旅して歩くのは、さぞかし辛かった事と思う。

長男の僕は何か仕事を見つけて、ブラジルで一旗挙げなければと思って居たが、マジック・インクの工場をしようと思いついたのも丁度其の当時の事であった。日本を出る時、引っ越し荷物の名札書きに使った一本のマジックインク、此れをブラジルで製造したらきつと当ると思ったからである。僕は早速自宅の裏庭にあった納屋を研究室にして化学の実験を始めた。関西学院の学生時代から化学の授業には常に興味を持って居たが、ノウハウ無しで素人が一つの製品を作ると容易な事では無い。まして当時は、日本の企業も未だブラジルには殆んど進出していなかった時代だった。

先ず染料の見本を手に入れようと市内のペンキ屋を片っぱしから探して歩いた挙句、一軒の店で



居合せたペンキ塗りの職人風の男に、「市電に乗ってランジェル・ペスターナ街の九九九番に行けば有るよ……」と教えられた。セルジオ・アウグスト・ドス・レイスと錆びれた看板のかかった店のガラス戸を押して入ると、店の奥に一段高くなつたカウンターが有り、数人の職人風の男達を相手に何か話している主人らしい年配のポルトガル人が居た。三つ揃いのグレイの背広に山高帽を斜めにかぶり、モリス・シュヴァリエそっくりの風体の彼は、僕が入って行ってもビアーダ（ブラジル特有の笑い話）に熱中していて、皆を笑わせると益々調子に乗って一向止める様子も無かつた。そうしてまる一時間も経つたであらうか、彼は、「ここいらで一つカフェにでもしよか？ 其処の日本人の旦那、あんたも一緒に……」。と言うと僕の肩に手をかけて歩き出した。表の電車道を横切つて向いのバルに行くくと、彼は皆にカフェ

ズイニョを注文し、其処でも彼のビアーダは尽きず、再び店に戻つて来ると辺りはもう薄す暗く成つて居た。恐る恐るやつと僕が用件を述べると、彼は店員に命じ、ひょこいがんだ棚にずらりと並んだ缶から染料の見本を取り出し、一つ一つ紙切れに包ませると品名を書き入れてくれた。

翌朝、僕は当時、東山銀行（現在の三菱銀行）の在った、シルヴェイラ・マルチンス街に行つた。丁度銀行の向いに色んな化学薬品を売って居る店が在ったからだ。其処でキシレンの瓶入りを買つて来て、樹脂を試験管に入れた溶剤に溶かし、もらつてきた染料のサンプルを一つ一つ試してみた。幾種類もある染料から適当なのを選び出すのは容易な事では無かつたが、まがりなりにも八色の油性インクを作るのに成功したのである。

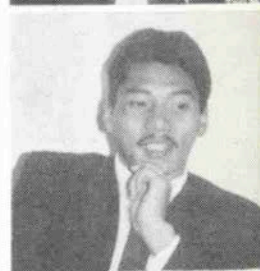
一九五七年の十月に一本のマジック・インクから始めた小さな町工場も時代の変遷に応じ、サインペン、白板用マーカーに白板、各種工業用インク、手芸用キット等を製造する様に成り、今年で創立三十年を迎える事に成つた。苦しい時にも何時かはきっと良い時代が来ると信じ、日夜新製品開発の研究に励んだので、現在では各製品のレットルや包装の印刷に至る迄全て自社でまかなつて居る。然し無一文で工場を始めた赤字経営の時代に、母が料理の講習で稼いだ金を注ぎ込み援助してくれて居なければ、今日の発展を見る事は出来なかつたであらう。

祝・ラグビー日本選手権初優勝

真剣に遊ぶぞ！

これぞラグビーの原点

神戸製鋼ラグビー部キャプテン平尾誠二さんに聞く



平成元年1月15日、東京国立競技場で行なわれたラグビー日本選手権で地元神戸からチャンピオンが誕生した。『神戸製鋼ラグビー部』過去大会での最高得点、44点（昭和44年、トヨタ自工）を上回る46点という快記録をおさめたうえでの鮮やかな初優勝だった。

「目標の日本一になったことはもちろんうれしいです。けれど何よりいいラグビー、いい試合ができたという実感の方が大きい。神鋼ってこんなに強いチームやったんか！って後で顔見合せたんです。今回は日本選手権初出場でしたしね。みんなで一所懸命プレイした、いいラグビーをした、いい気持が優勝につながっていったと思います」神戸製鋼のフイフティーンを率いるチームの主将、平尾誠二は日本一の栄冠を殊さら過大評価することなく、さらりとその思いを語る。ラグビーが好きだからする、おもしろいラグビーを楽しむことこそがラグビーの精神だと彼は強調する。

今年チームは60周年を迎えた。企業ラグビーとしては新日鉄八幡、近鉄と並んで歴史ある、草分け的存在といえる。創部当時の昭和初期、神戸では居留地や京町、海岸通りあたりには数多くの英国系貿易商社が立ち並び、

外人や若い会社員が昼休みや退社後、東遊園地などでラグビーに興じる姿がよく見られたという。そして昭和3年10月、当時の取締役、徳田治三郎氏の発案により神戸製鋼ラグビーチームが創設される。それに啓発されてか昭和4～5年には神戸ラグビークラブ、三菱和田クラブ、ブランナーモンドと次々に地元チームが結成されていった。神鋼OB会の杉田もと会長が当時をふり返って次のように話している。

「重役からのラグビーチーム編成命令で早速、選手探しに大わらわ。まずズータイが大きいのを基準に力もちを集めていった。それとルールを少しでも知ってる者もひき入れ何とか15名をかき集めた。ユニホームは緑に胸のところに太い白線が入ったなかなかハイカラなやつ。靴は自弁でしたけどこのユニホームは重役が作ってくれました。あとでセーターももらいました」

つづいてこんなエピソードもある。

「確か昭和5年頃。試合当日、大雨になったので大半の選手が試合は流れたものと下宿で麻雀をやっていた。ところが試合はちゃんとあって……あの時の重役の血相を変えた激怒ぶりは今でも皆が忘れられない。大雨でもラ

グビーはやるんだと肝に銘じた一件でしたね」爾來60年
グランドからは多くの名プレイヤーが育っていった。

現在チームは監督を置いていない。これは他には例を
みない神鋼独自のキャプテンシーの尊重に依るものだ。

「僕自身は監督制もキャプテン制も、どちらも正しいと
思っている。要は信じてどこまで根気強くやれるかなん
です。そのやり方を信じて進むしかない。当然失敗する
時もある。でも失敗データを徹底的に分析して次に役立
たせれば少なくとも同じ誤りはくり返さないだろうし、
新しい方向や発見も生まれるかもしれない。僕はプレ
イヤーとしてあたり前のこのプロセスを監督に委ねない
で1から10までみんなで話し合い、ひとつひとつ納得し
ながら決めていったんです。外ワクから固めるんじやな
くて内から湧き上がったものが外へ浸透していく。ラグビ
ーへの思いと同じですよ。僕はそのまとめ役といったと

ころ」キャプテン平尾は決して「僕が」とは言わない。
常に「僕達」「みんな」が主語となる。ラグビーはスタ
ープレイヤー、個人プレイを敬遠する一面をもつ。その
点について、彼は各自の得意プレイはむしろ試合にどん
どん取り入れるという。それぞれの個性をなくしてまで
チームプレイのみに徹することはない。チーム各人の
良さをどれだけ引きっぱり出せるかがキャプテンの本当の
役どころというわけだ。

「スポーツは遊び心が第一。一所懸命ラグビーをやっ
たということは思いっきり遊んだということ。遊びやか
らこそ真剣になれる」平尾のこのことはこそ神鋼フィフ
ティーンズのラグー精神の「核」に違いない。

(編集部/佐々木永都子)

■ステップで前進する平尾、決勝にて

(右から3番目ボールを持つ選手)



■タックルを受けながら
突進する大八木、決勝にて



■夏の合宿でダミーを使って練習





珈琲のみながら...

メリケンパークに6月オープン ホテルオークラ神戸・代表取締役 大石邦雄さんに聞く 国際級ホテルで 神戸の魅力を！

ホテルオークラ神戸がメリケンパークに竣工間近、六月二十二日オープンの予定で、高さ百三十五m、三十五階建、金色レースの裾模様で華麗な姿を見せる。昨年十一月に代表取締役役に就任された大石邦雄さんに国際級ホテルの経営と神戸に賭ける思いをおききした。

★ゆかりの神戸で六月二十二日オープン！

——ホテルオークラさんが神戸エリアにおいてになるので、神戸っ子たちは大変楽しみにしております。

大石 かねてから念願でしたが、東京以外に大きなホテルとして進出したのは初めてです。二十五周年記念事業の一環でもありまして、メリケンパークの土地を譲り受けることができたこと、神戸には大きな魅力があることを考えてのことです。

——大倉山は大倉さまのご寄附によるそうですね。

大石 そうです。メリケンパークはちょうどその真下ですし、ゆかりの地なんです。

——ご入社はいつですか？

大石 昭和三十五年入社で初めは人事畑でした。会長を除くと一番長いです。生まれは東京で大学（早稲田）

も軍隊も東京ですから、東京から出たことがなかったんですが、今は早く神戸っ子になりたいですね。

——二年住んだら神戸っ子といいます。（笑）

大石 そうですか？それはありがたいですね。（笑）今年は神戸市は百周年で、また年号も変わって平成となりましたね。ただ一つ残念なのは神戸進出に力を入れて、その開業を楽しみにしていた野田岩次郎名誉会長が昨年末亡くなられたことです。商社出身で「関西の商売は難しいぞ」とこんなこと、徹底していわれました。値段の設定が非常に難しい、とにかく良いものを作って安く。神戸で、料理店もファッションもあまり高いものはどうでしょう。高級志向だけではどうも。

★ロビー、日本庭園、そして夜景を売り込みます！

——ホテルオークラ神戸のご自慢は？

大石 これは僥越ですが、東京で靈南坂が上がってオークラのロビーに入りますと、落着いた安堵感があるんですね。それと同じものを神戸も作ります。こちらのロビーには日本画の有名な先生の画を掲げます。トップフロアにレストラン、地上一階に大宴会場。この壁面は大

貫泰子さんといって日本で唯一一人重ね継ぎ、破り継ぎという技術を持った方の平安調の「三十六人歌集料紙継ぎ合せ」をモチーフにした創作芸術で飾ります。大貫さんは、東京オークラ「平安の間」の壁面装飾を製作された縣治朗先生のお嬢様です。もう一つは庭園ですね。オークラの名物として七百坪の庭ができます。お楽しみいだしたいですね。

また東側の建物全館ヘルスクラブでして、室内・外のプールとテニスコート、サウナ、ジム、個室のタニングルーム（陽焼け用）、専用のラウンジなど年輩の方々にも安心して使っていただけの方式で、ぜひご利用いただきたいと思います。

——立地が最高ですね。

大石 ええ、百三十五mの高さから見る夜景は天下一品ですよ。海は大阪湾から淡路島と素晴らしいし、六甲の山々を背にした立体感のある夜景が、実に良いんですね。ぜひ、売りものにして皆さんにお見せしたい！

★オークラのイズムは人材、ACS、親切と人の和

——開設で苦心なさる点は？

大石 人集めとその教育訓練ですね。東京の場合も開業二年前から各ホテルにお願いして少しせいたくに訓練しましたが、今回も徹底して準備しました。五十人のスタッフの殆どは二十五年のキャリアの者を配しております。

▲ホテルオークラ神戸と大石さん

——ホテルオークラのイズムは何でしょうか？

大石 これは「ACS」といましてAはaccommodation（施設）Cはcuisine（料理）Sはservice（サービス）、この三つを常にベストにしておくことが至上命令です。その上で親切と人の和です。お客さまには勿論、職場でも上にも下にも同僚にもそれを大切にする。チームワークでやってまいりました。

——神戸もハーモニの良さが仲よくやって来ます。

大石 良い街づくりをしますよ。三宮の東急インから毎朝歩いて出勤し、せつせと神戸の街を歩いています。——外国の方はオークラを好きですね。

大石 国際級のホテルとして始めましたが、東京もオーブン前からアメリカ各地をセールス活動していました。当時の来客数は現在の十分の一ぐらいでしたね。アメリカ大使館の前という地の利もあるでしょうが、昭和四十九年アメリカのフオード大統領来日の折、ホテルオークラが迎賓館担当ということで国賓を接待したこと、また、サミットで歴代米大統領がご利用下さったことなどで認めていただけたんですね。近年は東南アジア系の方も来られ、国際経済が反映いたします。

★神戸の街と共存共栄をはかりたい

大石 神戸はコンベンション都市で市が会議場を持っていますから宿泊関係を各ホテルで分担して共存共栄で神戸の皆さんに可愛がっていただけるようになりたいですね。個人マーケットも大きいですから客層については暗中模索しているところでず。

——神戸の街でこうして欲しいと思われることは？

大石 商店の閉店が早いんですね。七時ぐらいからガラガラ閉められるとわびしくなりますよ。元町やトアロード、大丸前の専門店がもう少し遅くまで開けていくと、さると、うちはショッピングゾーンがありませんので、東京や地方からいらつしやったお客さまに私どものホテルと共に神戸の街をもっと楽しんでいただけたらと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

